

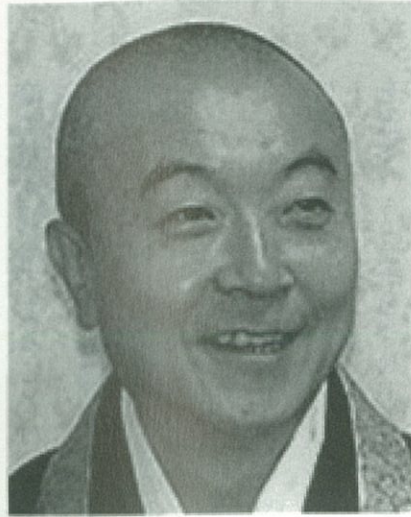


一般社団法人 大日本武徳会

会報 **武徳**

2015.10 秋季号





文苑は一翫了蘇限のもの
文苑は車の両輪、謀の両翼

一般社団法人 大日本武徳会

精進

総裁

東伏見慈晃



大日本武徳会創立一二〇周年記念

第五十三回 全国武徳祭

日時 平成二十七年四月二十九日 午前十時

場所 京都市武道センター・旧武徳殿

主催 一般社団法人大日本武徳会

後援 京都市府・京都市

-
- ◇ 大会次第
 - ◇ 第53回 全国武徳祭表彰
 - ◇ 大会の様子
 - ◇ 御礼の御挨拶
 - ◇ 受賞者のことば

第五十三回 全国武徳祭表彰

● 団体最優秀賞

京都府 一心無双流居合道 剣心会

● 個人最優秀賞 桑原兵充杯

大阪府 日本古式武道協会 拳刀会

平野 秀雄

● 京都府知事賞

兵庫県 心月無想柳流 甲武館

竹田 豊

● 京都市長賞

大阪府 虚心流居合剣法 誠道館

山本 楠城

● 団体優秀賞 [四団体]

大阪府 沖繩又吉古武道 光道館 大阪堺守礼館

群馬県 古武術錬成武備舎

大阪府 無双流 大阪修武会

大阪府 虚心流居合剣法 誠道館

● 優秀賞 [五名]

神奈川県 天真正伝香取神道流

杉野 至寛

石川県 風伝流

中森 茂範

大阪府 神伝円心流

森内 一藏

三重県 古流無双直伝英信流居合兵法 神和会

山口 峻輝

大阪府 沖繩又吉古武道 光道館 大阪堺守礼館

村山 盛哲

● 剣道の部 優秀賞

大阪府 虚心流居合剣法 誠道館

山本 勇

● 奨励賞 [八名]

大阪府 素心流居合抜刀術

宮園 國男

福島県 中村流抜刀道 福島県支部 新誠館

美野 清孝

愛知県 無雙直伝英信流 尾張錬駿館

滝尻 省三

石川県 無双直伝英信流

井本 敏弘

広島県 広島県支部 無雙神伝流

岡崎 清正

徳島県 誠正館抜刀術神伝流

樫野 正

大阪府 日本古武道 武公館道場

木下 守

京都府 無双直伝英信流 至誠館

渡邊 佳代子

● 剣道の部 奨励賞

大阪府 虚心流居合剣法 誠道館

平田 与一

● 努力賞 [十三名]

大阪府 誠道館虚心自然流

太田 和幸

茨城県 夢想神伝流 陽武館 市村道場

伊藤 正樹

大阪府 日本古式武道協会 拳刀会

西久保 博幸

大阪府 日本古武道 誠慧塾

樋口 友視

大阪府 土佐直伝英信流 一心塾

松本 和清

京都府 直伝円心流

酒井 善宣

栃木県 無双直伝英信流 英信館

鈴木 美香

長野県 夢想神伝流 上田明倫館道場

竹花 豊和

石川県 戸山流(小松)

中田 美代子

愛知県 日本戸山流居合道

横山 達也

長野県 夢想神伝流 唯心会

玉井 秀一

兵庫県 心月無想柳流 甲武館

長谷川 力

大阪府 無双流 大阪修武会

上田 修司

● 剣道の部 努力賞

大阪府 虚心流居合剣法 誠道館

金澤 信男



第53回全国武徳祭記念写真 平成27年4月29日 旧武徳殿

終戦70周年と本会創立120周年の節目を迎えた第53回全国武徳祭において、日本国内のみならず海外支部のフランス、ロシアからも参加者が旧武徳殿において集結した。参加者一同は丸丸となって本会が誇りとする伝統的な武道の精神を全うした。和魂の根源が崇高な武徳の名において不滅の足跡を残し、その輝かしき歴史の1ページとなった記念の一枚である。

会報編集委員会
撮影協力：井上優氏





団体最優秀賞

団体最優秀賞 受賞のよろこび

一心無双流居合道 剣心会 川崎 竹藏

新緑に輝く「昭和の日」四月二十九日の良き日。

大日本武徳会創立百二十周年記念・第五十三回全国武徳祭におきまして、団体最優秀受賞の栄誉に輝きました。我が流派は、全員の礼節・型の統一・技の鋭利さを信条といたしております。全体のまとまりや団体技の美しさを評価されたものと受け取り、剣士一同、心より嬉しく存じております。表彰式るとき、隣に並んでおられたアメリカやロシアの剣士達より「おめでとございます」と、日本語でお祝いの言葉を受けたときは、日本武道を志すもの同士、通じるものがありました。

一心無双流居合道剣心会は、京都（二）滋賀（五）千葉（二）の道場において活動いたしております。そのために、指導者間の礼節・型や技の統一に腐心いたしており、年二回、指導者研修宿泊稽古会を実施いたしております。また、毎年、稽古目標を定めて、活動にアクセントをつけるようにいたしております。今年の稽古テーマは「みせる」としてあります。く見せる・観せる・魅せる等、いろいろな理解し、



最優秀賞受賞の祝いの席にて

そのためには居合道演武の熟達はもとより、詩吟などの詩武道、試斬研究など会員一同、心身の鍛練を目指しております。
 来年は世界武徳祭があるそうでございます。日本武道を極めたい世界の剣士達を迎えて、奥義の域まで同道いたしたいものです。
 一般社団法人大日本武徳会の益々の発展と、剣士同友のおつきあいをお願い申し上げまして、受賞のよろこびとお礼とさせていただきます。

京都府知事賞

京都府知事賞を受賞して

心月無想柳流柔術 古武道甲武館 竹田 豊

大日本武徳会創立百二十周年記念、第五十三回全国武徳祭におきまして、「京都府知事賞」の栄誉を頂きまして、この上ない喜びを感じると共に、これもひとえに本会諸先生方のご厚情の賜物と深く感謝申し上げます。有難うございました。

第二十一回全日本武徳祭（当時の名称）において、初めて賞を頂き天にも昇る気持ちで賞状と盾を受け取り感激したことが昨日のことのようです。

十代で武道に目覚め半世紀、その後、縁があり心月無想柳流柔術の門を叩き今日に至っています。

「形の中に隠された技の本質を観よ、更に精進せよ、そして悩め。常に礼儀を重んじ心を磨け、道場の中だけが稽古と思うな。社会生活を営む中で発揮せよ。」と教えられました。

武術の目的の出発点は同じと考えますが、江戸期、明治期、そして現代に至っては目的意識も大きく変化しています。

古流は形稽古が中心といいますが、武術である限り自己防衛を堅持

することは当然であり、そのための危機回避は必須であります。

慢心や驕りの心からは、何の学びも成長もありません。むしろ自分の不完全さを反省し受け入れ認めることが大切かと思えます。

この先も「精進第一、忍んで一生」の気持ちです。

賞に恥じぬよう更に奮励し、微力ではありますが、本会の発展に寄与していきたいと存じます。

京都市長賞

京都市長賞を受賞して

虚心流居合剣法宗家 範士八段 山本 楠城

平成二十七年四月二十九日、第五十三回全国武徳祭において、栄誉ある「京都市長賞」を賜りました。浅学菲才のわが身としては、思いもかけぬことでありましたが、これもひとえに副総裁桑原兵充先生、代表理事濱田鉄心先生をはじめとする諸先生方のご厚情の賜と深く感謝し、御礼を申し上げます。

思えば、少年の頃より剣道、柔道等、現代武道を学び親しんで来ましたが、三十有余年前、古流の刀法を学ぶ必要を深く感じ、大日本武徳会公認虚心流居合剣法の門を叩いて以来、本会の存在と諸先生方の

礼についての考察

上村 雅彦

創立百二十周年記念『第五十三回全国武徳祭』が盛大に、且つ事故もなく無事終了出来ましたことを大変嬉しく喜びを感じます。

武徳祭の運営に多大なる御尽力頂きました先生方に心から御礼申し上げます。

またこの大切な行事に私めに「実行副委員長」のお役をいただきましたにもかかわらず、数々の至らぬ点を残してしまいましたこと、深くお詫び申し上げます。

今回の全国武徳祭におきまして各団体先生方の素晴らしい演武を拝見し、厳しい鍛錬のもとに達せられる妙技に改めて大変感動致しました。また、技の素晴らしさとともに本当はとても大切な事であるにもかかわらず他所では見受けられなくなってきた素晴らしい『礼』の所作を拝見しました。

改めて大日本武徳会の本来武道家として忘れてはならない本質を演じていらっしゃる先生方の素晴らしさに私も誇りを感じました。

「武は 礼 に始まり 礼 に終わる」
と云われますが、何故礼なのでしょう。

剣においての実戦の場合、刀に例えますと鞘からの抜き方と納め方が大切だと考えられます。

何故抜くのか。

どの場面で納めるのか。

始まり方と終わり方を間違えたと闘いが和合となるか、遺恨として残るものか違ってきます。

これが国家間の戦争で例えますと、最終は国同士が和平し終戦となります。そうでなければ遺恨を残し、酷くなればテロリストが闘いのような報復措置を企てる事となりかねないでしょう。

しかるに相手のことを重んじる態度や尊厳を伝える気持ちを示しながら正々堂々と闘い、和をもって終と成すことが最も大切でありますから、**礼**が武道にとって最も重要なのだと私は考えます。

武道を稽古します**道場**とは**道**の**場**と書きますから、人としての**道**の探求が最も必要な事でありましょう。そうでなければ粗暴な輩の輩出場となりかねません。

以前、あるテレビ番組の企画で外国の武道家が紹介されました。その方は毎年、二回ほど日本に來られて薙刀を稽古され、自国の道場において日本で修練された薙刀を指導されているとの事でした。

インタビューされている方が最後に「薙刀のどこに魅力があるのですか」と問われますと、「試合の最初と最後だけを見ていますと、どちらが勝ったのか負けたのか判らない。そこに魅力を感じます」とお答えになりました。見ていた私は、道を逆に教わったような気持ちにさせられました。

勝つて傲るわけではなく、負けて悔やむわけでもない、相手に対する礼儀を尽くすことが、我々日本の武道家が示すべき態度であり、「一般社団法人大日本武徳会」先生方の素晴らしき**礼**が今後も世界中の武道を志す人々の良き指針となり続けますことと考えられます。

大会検証委員として思うこと

虚心流居合剣法 山本 勇

まずは、ご挨拶申し上げます。私は、平成二十六年十二月十六日付で、武道執行専門委員の委嘱を受け、平成二十七年二月八日から二日間、この重責を承ることとなりました。修行中の私としましては、身に余る大役と恐縮致すところではありますが、委嘱を承ったからには、微力ながらも出来る限りの努力をしなければと覚悟を新たにしているところであります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、平成二十七年四月二十九日に行われました第五十三回全国武徳祭において、私は、検証委員として大会進行に参加させていただきました。参加するにあたり、私は、検証委員としての心構えのうち、次の二点を特に強く意識しました。第一点目は、各先生方が雑念なく集中して演武に入れますよう質的規範、礼節規範を阻害する事象を見逃さないようにすること、第二点目は、安全管理を全うすることでありました。

私の検証立会時を申しますと、先生方の真剣な演武と節度ある観衆の姿勢で何ら問題なく演武は進行されていたと思います。一度だけ、見学者の安全を図るために、椅子から立ち上がって、見学席の整理に当たることがありました。この時、私は、検証委員が席を離れてもよいものか、見学席の整理は他の者が当たるべきではなかったかと感じ

ておりましたところ、次の検証委員として待機されていた委員が、事態を察して、すかさず私の椅子に座っていただいたのです。さすがでした。結果として、検証委員間の連携が上手くなされたこととなりましたが、反省として、急変時に備えて、更なる慎重な心構えと配慮の必要性があるのではないかと思われました。

その他の具体的な内容としては、ボードに委員の氏名と割当時間、待機者の氏名が貼りだされていたのは、進行上、分り易く大変良かったのではないかと思います。

以上思うところを書かせていただきました。次回の第五十四回大会は世界大会と聞き及びます。自らは、武道を正しく学ぶべく努力を重ねると共に、一般社団法人大日本武徳会の益々の発展と来年度世界大会の成功を祈念致します。

「武道執行専門委員」をお受けして

戸山流居合道 大藪 美代子

大日本武徳会創立百二十周年記念・第五十三回全国武徳祭は天候にも恵まれ清々しい新緑の中で行なわれ、演武者の気迫に満ちた演武を拝見し、改めて日々の練習の大切さを痛感しました。

武道執行専門委員をお受けして礼儀作法等、会員の手本になるようにと言われましたが、まだまだ未熟で見習うことの多い私にとっては

国際部の礼儀・立ち居振舞いの良さに武道家としての本筋を見せて頂いた様な衝撃を受けたものでした。

我々日本人の礼儀の良さはどこへ行ってしまったのか。正直、そこまでしなくてもと思う所もありますが、良い所は見習うべきではないでしょうか。大会毎に思うのですが、呼ばれても返事が聞こえないのは何故なのでしょう。最低限の礼儀のはずでは。子供たちに伝えていくべき大人が心して実践していかないと伝わってはいかないと思います。

武道を志している以上、一般の方々よりもなお一層大切にすべきことだと思っています。

検証委員

範士八段 成田 守


文化交流と武道交流を通し、張り詰める熱気と真剣な眼差し、一糸乱れず気迫のこもった演武は見るものを魅了する素晴らしいものでした。

一 武道家として言葉の壁もありますが、情熱あふれる武道家がそれぞれの思いを胸に、世界に誇れる武道の殿堂・武徳殿にて毅然と検証委員として対応が出来たことは、私自身、今後の成長の糧となる大変貴重な体験が出来ました。

大日本武徳会によせる責務の重さを感じ、会員一人一人が武徳会に未来的な発展と貢献に寄与し恥じないよう精進し、努力を続けて居合道の普及に尽力し、青少年の指導育成に努めてまいります。

世界は一つを合言葉に益々の精進を重ね、一般社団法人大日本武徳会国際部の益々の発展を願うものであります。

京日記



◆居合や柔術といった古武道の演武を披露する「全国武徳祭」

が29日、京都市左京区の京都市武道センター・旧武徳殿で開かれ、参加者約300人が日ごろの修練の成果を力強く演じた。写真。

◆全国各地の団体に加え、フランスやロシアからの参加もあった。静まり返った会場で、迫力のある技や美しい形が次々と披露され、観客は息をのんで見守った。

◆大日本武徳会が毎年開いており、53回目。今年会同会創立120周年にあたり、高田寛次理事(86)は「節目の年らしく、緊張感のある演武が続いた」と話していた。(阿部秀俊)



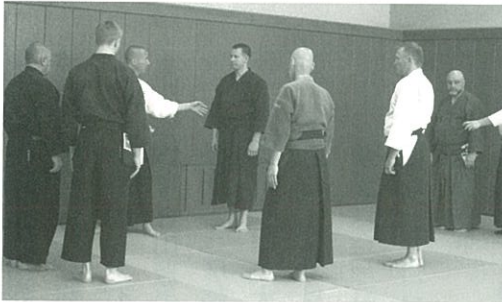
(写真撮影：高田寛次)

平成二十七年昇段、称号の許状を授与されました先生方は左記のとおりです。

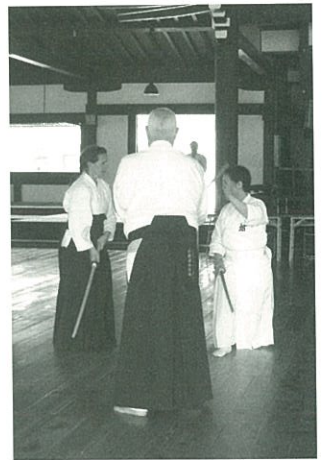
居合道

八段・範士	美野 清孝
八段・教士	桶田 正信
七段・教士	井本 敏弘
七段・教士	中田 浩大
七段・教士	山本 勇
七段・錬士	太田 和幸
六段・錬士	中川 憲男
六段・錬士	西本 善明
六段・錬士	松村 則夫
六段	前田 重男

及び国際練成大会



国際部武道講習会



(写真撮影：高田寛次)

第二十一回全国青少年武徳祭表彰

● 団体最優秀賞

石川県 こばと修童館

● 団体優秀賞 [三団体]

大阪府 日本古式武道協会 拳正会
 香川県 首里派空手道協会 武学館
 大阪府 日本空手道 拳龍会

● 団体奨励賞 [三団体]

京都府 日本武道空手協会 正守和道塾
 大阪府 心傳流柔術 武徳和魂会 拓心館
 京都府 至誠館

● 団体努力賞 [三団体]

大阪府 日本古式武道 武公館道場
 大阪府 無双流 大阪修武会
 京都府 京都西山高等学校 合氣道部

● 個人最優秀賞

大阪府 日本古式武道協会 拳正会

● 個人優秀賞 [十名]

大阪府 日本古式武道 武公館道場
 香川県 首里派空手道協会 武学館
 石川県 こばと修童館
 大阪府 日本古式武道協会 拳正会
 京都府 日本武道空手協会 正守和道塾
 大阪府 無双流 大阪修武会
 京都府 京都西山高等学校 合氣道部
 京都府 至誠館
 大阪府 心傳流柔術 武徳和魂会 拓心館
 大阪府 日本空手道 拳龍会

福井 来実

古本 祥大
 山本 玲佳
 東谷 信之介
 新井 瑠衣
 芳賀 裕哉
 中井 千佑
 里見 千夏
 渡邊 大也
 入野 温倫
 光野 優希

● 個人奨励賞 [十名]

大阪府 日本古式武道 武公館道場

香川県 首里派空手道協会 武学館
 石川県 こばと修童館
 大阪府 日本古式武道協会 拳正会
 京都府 日本武道空手協会 正守和道塾
 大阪府 無双流 大阪修武会
 京都府 京都西山高等学校 合氣道部
 京都府 至誠館
 大阪府 心傳流柔術 武徳和魂会 拓心館
 大阪府 日本空手道 拳龍会

● 個人努力賞 [十九名]

大阪府 日本古式武道 武公館道場
 香川県 首里派空手道協会 武学館
 石川県 こばと修童館
 大阪府 日本古式武道協会 拳正会
 京都府 日本武道空手協会 正守和道塾
 京都府 日本武道空手協会 龍濟会
 大阪府 無双流 大阪修武会
 京都府 京都西山高等学校 合氣道部
 京都府 至誠館
 大阪府 心傳流柔術 武徳和魂会 拓心館
 大阪府 日本空手道 拳龍会

大西 温子
 金重 風香
 柴田 悠希
 松原 諒知
 雨森 夏菜子
 渡辺 成
 栗原 涼花
 中村 航太
 山根 旭人
 橋本 莞汰

西村 航太郎
 久保 範葉
 金重 汐音
 山崎 皓大
 澤村 奏太
 山下 真也子
 山田 晴渡
 鹿子木 真哉
 仲井 悠真
 近藤 亮太
 千本 良精
 賀集 健斗
 賀集 良知
 徳永 樹菜
 立石 壮志朗
 立石 英志朗
 入野 温爽
 中川 陽太
 浦上 剛志

全国青少年武徳祭に想う

高田 寛次

猛暑のなか、平成二十七年七月二十日（海の日）第二十一回全国青少年武徳祭が、全国各地各団体に所属し伝統武道を志す青少年会員一三七名が京都旧武徳殿に集い盛大に開催された。

開催に先立ち、濱田鉄心先生先導のもと団体長・青少年会員及び保護者は、平安神宮に参拝され心身を清め、演武の成功・無事を祈願しお祓いを受けた。

旧武徳殿は、明治二十八年（一八九五年）平安遷都一一〇〇年祈年事業であった平安神宮造営と時を同じくして、大日本武徳会の演武場として武徳殿の建設計画が持ち上がり、そして明治三十二年（一八九九年）の平安神宮の北西の地に武徳殿が竣工され現在の建物であります。当時、東の講道館・西の武徳殿と評される程、日本武道の中心的存在でありました。

我々の先人達が日夜武道の稽古に励み、百二十年という長きにわたりのこの武徳殿を守り続けて来られた諸先生方の偉業を忘れてはなりません。

この旧武徳殿には武道に励んでこられた武人の魂が宿っています。このような旧武徳殿において伝統武道（演武）が出来ることのようにを忘れてはなりません。

参加された皆さんには、日ごろ伝統武道の稽古を真剣に習い「うまくなるろう」「強くなるろう」・「しんどい」思いをしておられることを痛感する一人であります。

「うまくなるろう」「強くなるろう」とする気持ちはよくわかりますが、稽古のつどあなた以上に真剣に教えて下さっている師匠・指導者・先輩・友達たちのことを忘れないで下さい。

学業を終え、道場への送り迎えをして下さる人もあるでしょう、汗にまみれた胴着などを洗って下さる人もあるでしょう、陽（ひ）になり陰（かげ）になって、あなたを大応援して下さる人達が居られることを忘れず感謝しなければ「うまく」も「強く」もなれません。

総裁東伏見慈晃殿下ご臨席のもと、午前十時三十分・空手道 正守和道塾・芳賀裕哉君の力強い選手宣誓に続き、祓の儀・居合道 こばと修童館・中田太郎君、空手道 日本空手道拳龍会・光野優希さんの演武は素晴らしく、日頃から精進されている結果だと称え、感銘した。将来、一般社団法人大日本武徳会の会員として、また、良き指導者として囑望される。

七歳から十七歳までの青少年会員はそれぞれの伝統武道・流派の特徴や所作の違いを良き指導者の素晴らしい指導と、時には厳しく指導

されたであろう実技が垣間見られた。

個々の集いが集団であり、それがチームワークであります。本大会の目的はそのチームワークはもとより演武の内容、青少年の自主性及び「礼・節・技」を参考に各団体を審査された。

第二十回（前年度）全国青少年武徳祭を顧みて、参加人数こそ及ばなかったが、演武内容は一段と素晴らしく「礼・節・技」においては特筆すべきものがあつた。

本年度の団体最優秀賞候補の選出、前述の基準に則り理事による投票がありました。

多数票の結果、本年度の団体最優秀賞は、こぼと修童館に決定した。演武中、検証員より「やめー」の指示があり、某君の提げ緒が正確に収めてなかったため全員演武を中止し提げ緒を直し検証委員に対し「ありがとうございます」と、頭を垂れ素直に「礼・節・技」を履行した立派な態度が評価された。

こぼと修童館に僅少の差ではありましたが、他団体の皆さん、来期こそその望みをかけて精進して下さい。

個人最優秀賞に輝かれた、日本古式武道協会 拳正会・福井来実さん、おめでとう。

団体優秀賞三団体・団体奨励賞三団体・団体努力賞三団体には盾と賞状が夫々授与され、個人優秀賞十名・個人奨励賞十名・個人努力賞十九名各人に盾が授与された。また、参加者全員には濱田鉄心大会委員長より「日本人として素晴らしい伝統武道を習い、武道を通じて、健全な心身を育て、いじめに合わない、いじめをしない、立派な武道人になる事を誓う」と訓辞され、DNBKゴールドメダルが、総裁をはじめ役員から一人一人に掲げられた。

表彰式を終え、集合写真「何んとカメラマンの多い事、三・四十人もっ

と居られたでしうか」。参加者のご父兄は愛おしい我が子の勇壯を収めて居られた。

今日の気温は三十六度という猛暑の中、諸先生方のご協力を賜り、事故なく無事終える事が出来ました。ありがとうございました。

御礼の御挨拶

第21回全国青少年武徳祭も皆様の多大なる御協力と御支援によりお蔭様で無事盛大裡に終了致しました。ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

一般社団法人 大日本武徳会

ご協賛及びお祝金をいただいた個人及び団体（順不同）

御芳名	金額	御芳名	金額
濱田 鉄心 様	50,000	藤井 正巳 様	30,000
桑原 兵充 様	30,000	平野 秀雄 様	20,000
高田 寛次 様	30,000	川村 八朗 様	10,000
中田 武太 様	30,000	木下 公子 様	10,000
竹田 豊 様	30,000	拳 正 会 様	10,000
山本 楠城 様	30,000		





(写真撮影：中田武太)

団体最優秀賞

団体最優秀賞杯を頂きました！

こばと修童館々長 中田 武太

真夏の日差しが照りつける外の猛暑とは裏腹に、武徳殿内は時折風が吹きぬける心地よい殿内でしたが、東伏見慈晃大会会長をお迎えし、青少年参加者百三十七名と本部役員の先生方や団体長・団体指導者と保護者応援団を合わせて二百五十人以上の人たちで、既に武徳殿内の熱気は沸騰点に達していました。

青少年参加者は勿論ですが、保護者の中には歴史的大木造建築物の武徳殿の威容に圧倒された方もいらっしやっただけで、礼節を重んじる武道大会ですから緊張の中、静かに演武を見守る雰囲気は、他のスポーツと違う厳粛なものを感じられたに違いありません。

「祓の儀」は私の道場の中田太郎君（高一）でした。普段は上がるタイプではないのですが、この時ばかりは緊張がありありと顔や体に表れていました。それでも全観衆のまえで大役の勤めを果たしました。無我夢中だった彼は、今は分からなくても反省を含めて将来、得難い経験だったと感謝する日がくることを期待したいものです。こばと修

童館の子どもたちも先輩の演武に立ち会えたり、これまで稽古を重ねてきた成果を、全員力をあわせて頑張ろうと誓い合えたことでしょう。

さあ！三番目の出場です。こばと修童館はこの日のために、七月十一日・十二日の二日間合宿を張って、目標を団体優勝とはつきり定めました。指導者が満足できるまで反復稽古です。稽古は裏切らない。稽古をすればするほど自信に繋がるとの信念のもと皆はよく頑張ったと思います。その結果自然と、立ち居振る舞いが堂々としてきたし、技も気合が入って大きくなってきたし、合一性・協調性が出てきたし、目線がしっかりとってきたなど、チームワークのいい集団になりました。入退場の整列・礼、待機や休憩の態度についても、いつも以上に厳しく指導しました。彼らは猛稽古に耐えてきましたから、余裕を持って演武に臨んだように見受けられました。

しかし、自信満々に臨んだ演武の最中に、検証委員の先生から突然「待て！」の号令がかかり中断されたのです。一人の子の居合刀の下げ緒が外れて床まで垂れ下がってしまったのです。見苦しい事と、下げ緒を踏んで怪我をする危険性があったことで中断されたと思います。が、この時私は、これで万事休す、団体最優秀賞杯は逃したと頭の中をよぎりました。後から聞いた話ですが、『下げ緒を元に戻す落ち着いた動作や戻し終わった後、検証委員の先生に礼をした動作や、他の待機している子どもたちの落ち着いた態度が大変立派だった。礼節あるチームワークだった。』と失敗を帳消しにしたとまでは言えないにしても、大きな減点要素にならなかったようです。あそこで崩れなかったことが稽古を重ねてきた成果だったと思いますし、彼らの自信に繋がった証だったのでないでしょうか。その後、演武を終えた彼らは、他団体の演武交代の間隙をみて、時々前後の席を交代しながら最後まで

で見学できたことも大きな収穫でした。

団体最優秀賞杯の行方は表彰式の直前まで知らされませんでした。審査員全員の満票で決まりましたと聞かされて驚きでした。表彰状・杯・楯を受けに出た三名は、感激が極まって笑顔を忘れた緊張気味の様子でした。優秀賞、奨励賞、努力賞を貰った子どもたちは少し頬が緩んでいました。全参加者に渡された参加賞は和洋文で記されたもので額に挙げてもらったDNBKメダルは濱田先生の激励の「未来は君たちに懸っている！」の言葉と共に参加者全員の心に響き巨り、終生忘れられない教訓を頂いた大会でありました。

団体最優秀賞杯本当に有難うございました。

団体優秀賞

子どもたちの晴れ姿を見て

首里派空手道協会 武学館 藤原 弘喜

第二十一回全国青少年武徳祭のご成功おめでとうございます。役員先生方、スタッフの皆さんのご尽力があつてこそ、今回も武徳祭参加という貴重な経験ができたことに武学館一同大変感謝しております。

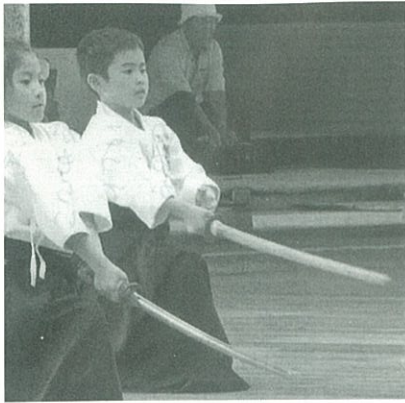
更に「団体優秀賞」という栄誉まで頂いたことは、選手だけでなく保護者の方々にとつて輝かしい誇りをそれぞれの胸の中に持つことができたと思います。

日頃の稽古は楽しいこともあれば、辛いこともあります。試合や大会に出場する選手は勝つてうれしいこともあれば、負けて涙することもあります。仲間たちと一緒に過ごす面白さもあれば、厳しい指導で挫けそうになることもあります。強くなりたいと思つて始めた武道の稽古も途中で道に迷い止めたくなることもあるでしょう。様々な思いを心に秘めつつ、みんなが同じ場で同じ稽古を続けています。全国青少年武徳祭は、そんなみんなの心が一つになるとても大切な「晴れの舞台」となっています。

白帯選手から黒帯選手まで熟練度の違う選手たちが同じ目的で一つの「舞台」を作り上げていく姿は、指導員としても親としても「武道をしていてよかった。」と思える瞬間です。決して演武の発表会に出ることが普段の稽古の目的ではありませんが、子どもたちの「晴れ姿」を見ることは、親と子のお互いにとつて大切な武道教育となつてい

と思います。

日本武道は「思いやり」の精神を大切にす文化であり学問であると思ひます。勝敗に拘る競技武道では忘れがちになることもあります。が、武徳祭のような演武祭では「思いやり」の精神が不可欠と思ひます。大会を運営する多くの先生方やスタッフの皆さんの「思いやり」があつてこそ、子どもたちがのびのびと「晴れ姿」を披露できます。更に同じ道場の仲間同士、先輩と後輩などお互いに相手を思う気持ちがあつてこそ、みんなで一つの舞台を作り上げることができると思ひます。今回「団体優秀賞」を頂いたことは大変喜ばしいことであり感謝してあります。それと同時に武学館の選手だけでなく、全国青少年武



団体しようれいしよをとって

至誠館 少路小学校 三年 くま野 風起

さいしよに、ぶとくでんに入ったらきんちよしました。
こんな場所、えんぶをするのだなと思いました。
平安神宮でおはらいをうけました。

すぐあつかったので、ねっ中しよになるかと思いました。

ぶとくでんにもどつて水をのんでから、しばらくして十時三十分
から、い合どうが始まりました。それから少し水をのむと、空手が始ま
ったので、それを見ました。

三番目は、またい合どうでした。そのい合どうは、ぼくたちのワザ
とは全くちがいました。四番目は、空手でした。自分は、九番目なの

で、まだまださきだなと思いました。
四番目の空手は、個人と団体のえ
んぎがあつて長かったです。友だち
のアクエリアスがなくなつていま
した。楽しみにしていた昼ごはんの
べん当がくばられました。くばられ
たお茶は、にがてだったのでお母さ
んにあげました。おなかいっぱい
なつて、やる気が出ました。昼ごは

んの次は、五番目の空手でした。かつこよかつたので、ぼくもやりた
いと思いました。六番目は、空手でした。高校生一人なので、他の人
とあわせないで自分一人でやつていました。すぐかつたです。七番目
は、古ぶ道でした。刀を持って前をしていたので分かりました。八番
は、合気道でした。このとき客せきの横だったので、すぐきんちよ
うして団体しようれいしよが取れるかしんぱいでした。さいご、後
ろに下がったとき、前に行きすぎていたのに気づいたけどおそかつた
です。後ろから下がられますかと言われたので団体しようれいしよは、
ムリかなと思つていました。でも、たてとしよじよがもらえてよ
かつたです。メダルももらえたのでうれしかつたです。たてとしよ
じよとメダルがもらえてよかつたです。

ぜん国青少年ぶとくさい

しせいかん 少じ小学校 二年 渡邊 眞子

ぜん国大会で、ほぼみんな「ゴールドメダル」をもらいました。た
てももらいました。たては、ぜんぶかんむりがついていました。

木のもようの、たてをもらいました。あと、石のもようのたてをも
らいました。木のはうの金のはつばを作るのは、大へんそうにかんじ
ました。はつばや、かんむりの作り方がしりたくなりました。

七月二十日が二十一回目の大会とは思いませんでした。「メダル」

をもらったとき、「すごい！うれしい！」と思いました。たては、お兄ちゃんももらいました。でも、家に帰ると、まだうれしいという気もちがのこっていました。ぜん国大会のとき、ぶじにおわれたのは、かみさまのおかげなんだと思いました。なぜかみさまかというと、ぶじぶとくでんについて、ぶじおわって、ぶじに家に帰れたからです。かみさまに、本とうにかんしゃしています。古ぶ道をする人は少なかったです。ほぼぜんぶ空手でした。古ぶ道があっても、しせいかなか、たびをはいっていませんでした。やるとき、まん中でやるのはドキドキしました。でもぶじに五つやりおわれてよかったです。来年も出たいです。つきこそひょうしょうぶじぶをもらえようになりたいです。それには、れんしゅうがひつようなので、いっばいれんしゅうをして、うまくなつてから、また行きたいです。楽しみです。ドキドキがとまりません。また、先生たちや、ぶとくでんに会えるのを楽しみにしています。つきこそ、何でもいいからもらいたいです。それまで、いっしょうけんめい、がんばりたいと思います。「ファイト！」



車の中で「上手だったね」とお兄ちゃん、父、母に言われたとき、すぐうれしかったです。本とうに、また友だちと行きたいと思いました。ぜったいがんばります。先生たち見ていてください。おねがいします。

楽しみにしていてください。

全国青少年ぶとくさいに さんかして

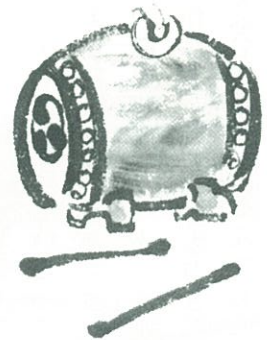
しせいかん 少じ小学校 二年 上の こうき

七月二十日に全国たいかいにさんかしました。さいしよはきんちようしたけどだいじょうぶだよと言ってくれたからあんしんしました。人がいっばいいいたからどきどきしました。

自分のでんがきてうまくできるかなと思つたのでれんしゅうを思いだしながらやつたらうまくできました。ちがう人を見たらうまくできてたからすごいなと思いました。

校ちよう先生とお父さんと母さんがきてたのでがんばりました。

もつとがんばりたいのでこれからいっばいれんしゅうをします。



個人優秀賞を受賞して

正守和道塾 中学二年

芳賀

裕哉

第二十一回全国青少年武徳祭に出場し、今年は選手宣誓と一言大役があったので、とても緊張しましたが、無事終えることができて良かったです。

演武では、道場のリーダーだったので、練習の時からみんながまとまってきちんと声を出したり、演武をそろえられるように何回も頑張りました。

練習の成果が出て「団体奨励賞」と個人でも「個人優秀賞」を頂けてとても嬉しかったです。

これからも心も体も強い人間になれるように練習に励んでいきたいと思っています。



全国青少年武徳祭に参加して

正守和道塾 小学六年

近藤

亮太

七月二十日、青少年武徳祭に参加させていただきました。二回目の参加です。今回は、空手を始めたばかりの二年生の弟も一緒でした。だから武徳祭までは、道場でも家でも、弟に教えながら一緒に練習ができました。弟も一生懸命覚ええました。少しずつ上手になっていって、弟も自信がついてきました。

当日、平安神宮でご祈祷をしていただき、晴天の空のもと、道場のみんな、指導してくださった先生、親たちと、「礼儀正しく、しっかりと声を出し、元気いっぱいカッコいい演武にしよう!」と心を一つにしました。古く立派な建物で、普段の練習場よりずっと広い旧武徳殿に参加されているどの団体も素晴らしく、少し緊張もしてきました。いよいよ僕たち正守和道塾の出番。小学一年から中学三年までの十五人の心が一つになり、僕もいつもよりものびのびと演武ができたよいうな気がしました。

正守和道塾は団体奨



ひょうしようの時によばれたのはきんちょうしたけど、がんばった
かいをかんじました。メダルをうけとった時、さらにがんばったかい
をかんじました。

他の人たちも、じゅしようしたときとてもきんちょうしていたんだ
ろうなと思いました。

これからもつとがんばりたいです。

これから

心傳流柔術 拓心館 小学二年 入野 温爽

どりよくしようをもらえて、

うれしかったです。

他の人たちを見ていたら、他
の人たちみたいに、うまくなり
たいと思いました。



これから、ほかの人たちみたいに、がんばります。

ぼくたちも、しっかりできたと思いました。

ぜんいんメダルをもらったから、よくできたと思いました。

武徳祭を終えて

武学館 中学一年 久保 範栞

受験勉強のためしばらく稽古ができず、大会にも参加できない期間
がありました。今回久しぶりに演武祭に参加できました。三種類の
形演武を行うこととなり、一応全て憶えている形なので、新しく学ぶ
必要はありませんでしたが、やはり稽古不足のため心配でした。しか
し自分なりの演武をできるように、今までよりもっと大きく、もっ
と美しく披露できるように稽古しました。

武徳祭当日は、いろいろな流派の人達がきていてどの演武も素晴ら
しかったです。後輩達との団体演武は一人のミスがみんなに迷惑がか
かるので緊張しましたが、それよりも一人での個人演武が一番緊張し
ました。でも大勢の人達の前でたった一人で演武することはなかなか
ないのでとても良い経験ができたと思います。また、様々な流派や
武術の演武を見ることができて、とても勉強になりました。

また一年一生懸命に稽古して、来年も武徳殿で演武をすることがで
きたらいいなと思います。そしてその時はもっともっと素晴らしい演
武をしたいです。

「最ゆうしゅう賞は、…こばと修童館です。」と言われた時は、びっくりしました。最初は、「ちがう賞かな？」と思っていたけれど、本当に、最ゆうしゅう賞だったので、「すごい。」と思いました。たぶん、一人一人が、がんばっていたからなのかな？と思いました。私は、自分の苦手なところを、直したので、よかったです。

今年は、しつかり、賞をとれたので、来年も続けて、次の人達に、しつかりつなげて行きたいと思いました。

わたしの青少年武徳祭

こばと修童館 小学五年 向 杏奈

わたしは、本番の前練習のことをおもいだして復習していました。本番になり、練習どおりにいっしょうけんめいがんばりました。自分の中では、もうすこしががんばれたなと思っていました。それに、少しほんいあいの三本目を、まちがってしまったので、ゆう勝できるかしんばいでした。

それからさいしよは、はじめてで、いくかいかないか、まよってしまつて、でも、わたしはお母さんに「ゆう勝できなくても、じつりよくをみせれば、そんでじゅうぶんだよ」と言われて、わたしは、五年間いあいをならつていたので、ここでみせるときだと思つたことと、初だんをとるための練習になるかなと思つたからです。それにいき

かつた理由は、京都にもいつてみたかつたからです。いつてみてのかんそうは、まずは、だんたいゆう勝をとれたことで、自分ではゆう勝できるとは思つてもいなかつたので、すごくうれしかつたです。それから、いつてよかつたなと思ひました。

こばと修童館(小)初V

全国青少年武徳祭団体

二十日に京都市左京区の大宮で、十七歳以下の区の武徳殿が開かれた。全国青少年武徳祭の団体で、小松市上小松町の居合道場「こばと修童館」チームが初めて優勝を果たした。青少年武徳祭は、居合道、空手、合気道など伝統武道の技を競う大会で、十七歳以下の区の武徳殿が開かれた。全国青少年武徳祭の団体で、小松市上小松町の居合道場「こばと修童館」チームが初めて優勝を果たした。

査員が採点した。

大会には、一週間前に小松市内で合宿を実施して臨んだ。これまでの最高成績だった準優勝を越えて初優勝を果たし、特に優れた個人賞には同館から四人が選ばれた。

中田武太郎(まな)は「いいところまでいくと思つていたがまさか優勝するとは。今年のチームは協調性が高い」とたたえた。

(谷大平)

◇個人賞の皆さん(数字は学年) 優秀賞 東谷信之介(芦城小6)▽奨励賞 柴田悠希(能美小5)▽努力賞 山崎皓大(第一小6) 沢村奏太(稚松小5)



団体で初優勝を果たしたこばと修童館の選手たち(京都市左京区で) (こばと修童館提供)

武道館員の皆様方に深く感謝し、本大会終了のご報告とさせていただきます。

一般社団法人大日本武徳会の今後の更なる発展と各位の武徳に栄光あらんことを祈念申し上げます。乱筆乱文ご容赦下さい。

第二十一回宮島嚴島神社奉納古武道演武大会開催

広島県支部 岡崎 清

一般社団法人大日本武徳会広島県支部が開催しております、嚴島神社奉納古武道演武大会は、今年梅雨入りが心配でしたが、歴史・伝説・自然・神をいっきまつの島と呼ばれるにふさわしい宮島において、平成二十七年六月七日（日）嚴島神社『祓殿』において開催されました。演武前に神殿でお祓いをして頂き、演武者一同記念撮影の後、正午前より開会式に移りました。大会会長・支部長 中丸元夫先生の挨拶に始まり、副総裁 桑原兵充先生、代表理事 濱田鉄心先生にご祝辞を頂き、奉納演武の開始となりました。初めに至誠館 藤井先生、英信館 桶田先生、日本戸山流居合道 成田先生、広島県支部中西会 中西先生、神刀渡辺流居合 望月先生、杉野道場 杉野先生、日本古武道武公館 木下先生、心月無想柳流柔術 竹田先生、石川県支部無双直伝英信流 東出先生、水心流 渡部先生、兵庫正武館 橘田先生、名城大学体育会居合道部 小林先生、広島県支部廿日市西風会、大阪堺守礼館 村山先生、貫心流 為石先生、日本古武道直心会 石本先生、理法塾 木下先生、一心無双流 山田先生、広島県支部広島柳生会 藤江先生、北攝古武道会 粕井先生、神伝円心流居合据物斬剣法会 森内先生、石川県支部 槍術風傳流 中森先生、各流派の先生方の

日頃修練された見事な技が演武され、嚴島神社参拝者の多くの人も足を止めて熱心に見学し、日本の古武道に魅せられておりました。最後に国際部（本部）空手道 濱田鉄心先生の心技一体の納の儀を以て演武も無事終わり、大会会長・支部長 中丸元夫先生の閉会の挨拶で大会は終了しました。

今回の大会においては、嚴島神社に奉納演武を行うことの原点に戻り、礼節を重んじた大会の運営にあたることを目標としました。また開催にあたり、各団体の代表の先生方には厳しい条件をお守り頂き、感謝申し上げ



げますとともに、今後の大会の方向性が見えた大会が開催出来ました事を心よりお礼申し上げます。

最後になりましたが、本大会の開催にあたりご支援を頂いた一般社団法人大日本武徳会本部の先生方に感謝致します。また、山田文典先生、小林信之先生、石本一平先生の三名の先生方には大会運営のご尽力を頂き、誠に有難うございました。そして本大会におきまして、関係各位の皆様のご協力・ご厚情に心より感謝申し上げます。

第二十一回

宮島嚴島神社奉納古武道演武大会

御祝金を頂いた皆様（順不同）

桑原 兵充 様	濱田 鉄心 様	中田 武太 様	平野 秀雄 様	山川 拳正 様	竹田 豊 様	藤井 正巳 様	川村 八朗 様	桶田 正信 様	石本 一平 様	木下 公子 様
---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------

平成二十七年六月七日に嚴島神社祓殿に於いて広島県支部嚴島神社奉納古武道演武大会が開催されました。小林信之先生・山田文典先生と小生の三名が本部派遣の管理運営委員として本大会の手伝いをさせていただきました。

本大会は、第二十一回目を迎えるとともに、今年初めに役員改選された広島県支部の新たなメンバーが中心となり、運営がなされました。本大会実行委員長の藤江成美先生（柳生新陰流兵法）との事前の打ち合わせの中で、①運営・進行が安全に滞りなく実施されること②参加者に配慮し、通行等を確保すること等々、指示をいただきました。また、今年度よりトラブル防止のため、警備員を配置する旨も説明いただきました。

当日は、広島県支部の先生方・門下生の方々が手際よく受付をされ、演武中も祓殿周辺に演武者が屯することなく、参拝者に充分配慮をされた運営であったと思います。その中で祓殿ならびに控室において、トラブルが発生することなく、無事に本大会が終了いたしましたこと、大変喜ばしい限りであります。

ただ残念なことは、当日、参加団体の中で同行者が増えたり、記念品・パンフレット・弁当の追加等の依頼が受付にあり、その依頼に対

広島県支部嚴島神社奉納 古武道演武大会に参加して

日本古武道直心会 会長 石本 一平

厳島神社奉納 古武道演武大会に参加して

至誠館 渡邊 祥正

「神宿る悠久の島」山の気、空と海、大地、宮島の神域は、潮風に清められ、風が木々を揺らし、葉ずれの音に神気を感じ、居住まいを正し、心清く、神に祈る。

古より、多くの人々の崇拜と畏敬の念を集めてきた厳島神社祓殿において「第二十一回宮島厳島神社奉納古武道演武大会」が開催され、参加の許をいただきました。

平安の雅を今に伝える殿内では、一如の太鼓の音が響き渡り、報告祭が執行され、戦後七十年を迎えた本年、今日の日本の礎を築かれた先人、日本の将来のために命を落とされた英霊に誠を捧げ、世界の恒久平和と日本の隆昌、今大会の成功と本会の繁栄、会員の安全が祈念され、副総裁桑原兵充先生ならびに代表理事濱田鉄心先生が太玉串を奉り、会員一同心ひとつに祈り合いました。開会式では、平和意識の低下、希薄化を踏まえ、私たち一人ひとりが平和の大切さを考える機会となるようお言葉が述べられ、代表理事濱田鉄心先生の力強い御言葉に参拝者までもが足を止め、お話に耳を傾けられ殿内は静寂に包まれました。これまでの私は、大日本武徳会会員というよりも所属する至誠館の一会員として出場していました。この荘厳な中に立ち合い武徳会会員としての自覚と誇りを覚醒する良い機会となりました。

奉納演武では、私たち道場に下命された出番は、プログラムの一番目でした。祓の儀を兼ねた出番と聞かされ、喜びと共に緊張感で胸が締め付けられる思いでした。御神前にて神気を感じながら、自分自身の心技体を表すこと。平常心、気持ちのコントロールをすること。高ぶること無く、頭の中で技の整理、心の準備に努めました。

愈々、出番に身も心も引き締まりました。一番目としての使命は、後に演武される先生方がより良い緊張感と向上心の中で演武しやすい環境を整えることだと考え、藤井先生はじめ道場の仲間と共に不動心で挑みました。

祓殿は、稽古時と異なり、薄暗く、前方周囲の動きが見づらく、合わせにくい状況でした。しかし、そうではなく他の先生方の呼吸や心を思い合いながら動きを読むのに、とても良い条件が整っていると考えました。目で見ることを諦め、心で見えることに集中したところ、自分の一刀一刃が伸び伸びと振ることが出来たと思います。現代でありながら、先人たちと同じ空間を共有できたような気がしました。

今大会が二十一回目という新たな歴史を刻む大会となり、本会が創設百二十周年、アメリカ支部創立五十周年という喜ばしい節目の年を迎えて平和の尊さ、戦わないことの大切さを考える良い機会となり、充実した大会となりました。

厳島神社の大神様の御加護のもと大日本武徳会の先生方はじめ藤井先生には、本大会出場の許をいただき、心から感謝し御礼申し上げます。一般社団法人大日本武徳会の会員として恥じぬよう修練に励み、日々精進してまいります。

第三十八回名城大学古武道大会について

名城大学体育会居合道部 主将 袴田 文美

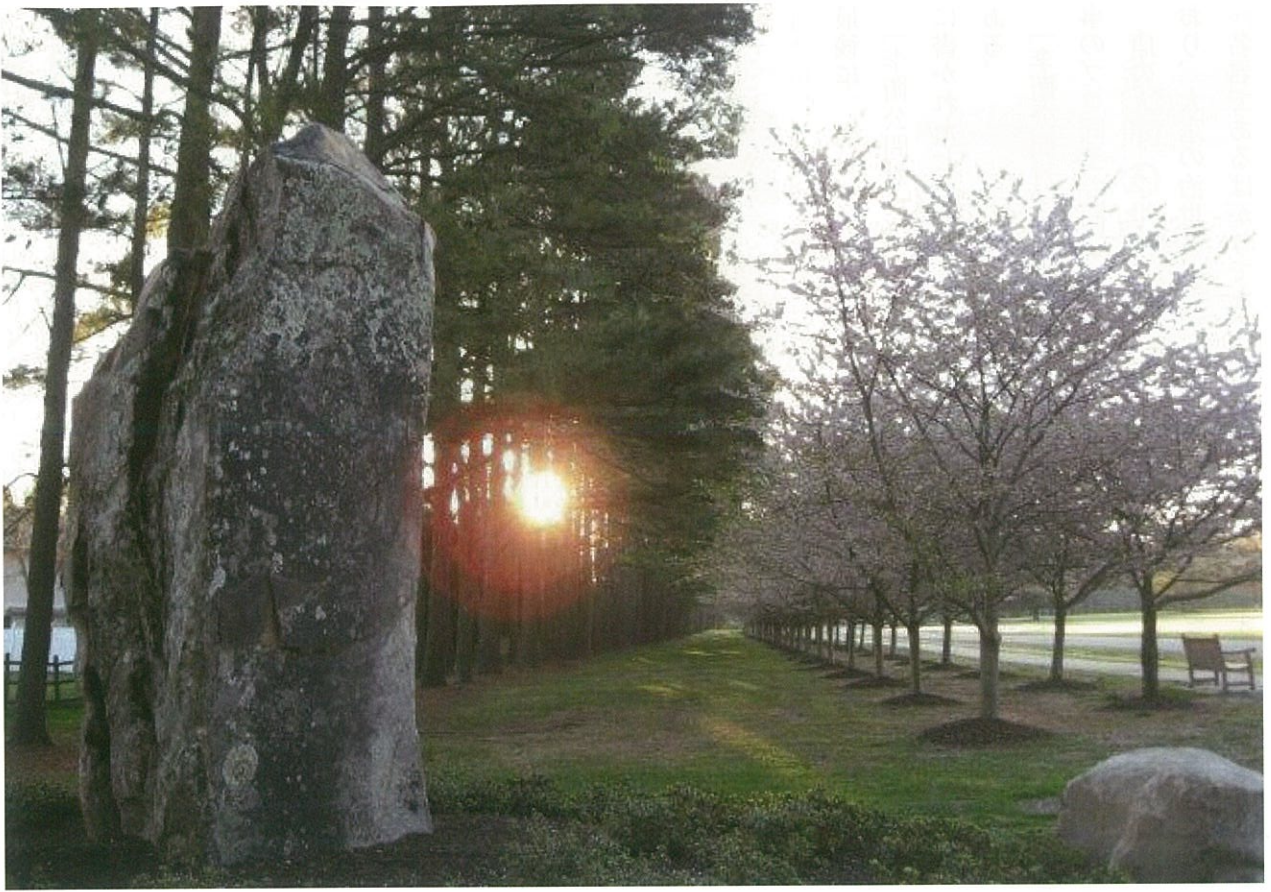
平成二十七年七月五日、名城大学体育館内にて第三十八回古武道大会が、名城大学体育会居合道部の主催により開催致しました。当大会には、一般社団法人大日本武徳会、中日新聞社、そして名城大学校友会の御後援を受け、大日本武徳会代表理事濱田鉄心先生の祝辞を頂きました。

名城大学居合道部では四月から新入部員三名を加え、部員八名で古武道大会に向けて練習・運営に取り組んできました。

今日では大学生での古武道人口の減少がささやかれており、今大会でも少人数での参加という団体がございました。しかし当日の古武道大会は活気に溢れ、古武道人口の減少を感じさせないものでありました。これからも今大会での活気に負けないよう日々の練習に取り組み、学生という立場から古武道を盛り上げていけたらと思います。

最後になりましたが、大日本武徳会のご協力により今大会も無事三十八回大会を終えることができたことに深く感謝申し上げますとともに、一般社団法人大日本武徳会のご繁栄をお祈り申し上げます。





アメリカ武徳祭の成果と 不滅の武徳精神

濱田 鉄心

アメリカでの半世紀に亘る武道歴史は正に光陰矢の如しであったが、単身で貨物船の底船に乗り込んで渡米したころの記憶が今も鮮明に思い出される。

バージニア州の大学に武道道場を設置して日本の伝統武道を教え始めたのは五十年前の厳しい夏の事であった。当時は日米関係が現在とは異なり日本国の独立から間もない世情であったため、まだまだ従属的な感覚が強く、米国社会の中では敗戦国日本への風当たりが厳しかったのは言うまでもない。しかしアメリカの若者が熱烈に臨んだのは常に強くなる事であった。彼らはアメリカの世界観や価値観を世界に誇示していくためには何よりも強いアメリカであることに固執していた。そういう意味で武術や武道に対する関心はひときわ高まりを持っていた。さらに極端な銃社会が反映するように、人的被害犯罪件数も世界に比類なき形で存在していた事を考えると日常護身術としての必要性も多大であった。大学での講義の傍ら武道道場での厳しい稽古と凄まじい汗と血みどろの歴史が五十年前に始まり、今日に至った。大学で大日本武徳会武心館道場が設置された後、バージニア支部、そしてアメリカ支部となり、さらに国際支部と変革し、現在の国際部と再構築され海外四十五カ国の会員が数千名に発展したのは奇跡としか

言いようがない。それは幾度となく生死の境目を歩いてきた自分が一番自覚している事である。今日まで生かされてきた事に対して誠実に全てに感謝したい気持ちで一杯である。

今年三月に開催されたアメリカ支部五十周年記念武徳祭と合宿は、その半世紀に及ぶ歴史的足跡に一光を残す機会であったことは間違いない。アメリカ支部と国際部の参加者五百名以上が寒さも厳しい大西洋の海岸に集結し、その魂とスピリットを体と心と精神で実証した歴史的大会行事であった。

今回の本会支部の企画事業には数百人のボランティアを含む千人以上の人達が関与し、二つの大きな自治体も加わり、数年間に及び準備を進めた。

我々の目指すところには卓越した武道の技術を習得し、個人の総合的發展に寄与することのみならず、それらのプロセスを通じて全ての人間交流を奨励して世界の共存共栄と相互理解の促進に結びつけなければならぬとする点に意義がある。

武道を通じた社会貢献が本会の国際的な発展と共に著しく顕著になつてきたことは実に喜ばしい事である。

本大会前の三月二十一日、マッカーサー記念館庭園に初めて大日章旗と星条旗が共に掲げられ、早春の風が終戦七十周年の歴史を追憶させる中、そこに参列した元帥夫人の親族、米国の学生たち、退役軍人、記念館関係者、市の職員等が見守る中、マッカーサー元帥夫人の人道的な功績を称えて日本庭園の開園式を実施した。我々は恒久的な平和を祈り、これをピースガーデンと命名した。

これは大日本武徳会アメリカ支部五十周年記念として、この記念館の中に大日本武徳会の名誉と誇りを残す意味でもあった。元帥夫人の姪であるシープール夫人家族が植樹式に参加し、ジーン・マッカーサー元帥夫人の功績が認識された事に涙されていた事が印象に残る。

さらに二十六日にはバージニアビーチ市立公園において本会が巨石を設置し、ピースモニュメントと命名した。もとよりその公園にはすでに二百五十本の桜の木を植樹して武徳プロムナード、桑原プロムナードが設置されている。年間数万人がそこを訪問する著名な日本公園となつていて、毎年恒例の桜祭りが開催されている。その公園にアメリカ支部五十周年記念として約一年以上かけて数億年前のものだと推定される二十トンの巨石をテネシー州の山奥から発掘し、数千キロの旅をして運んできた。その巨石が放つ宇宙観的な力は想像を絶する。これがピースモニュメントである所以は本会がひたすらに世界平和を祈願し武道を通じたグローバルな人間交流を推進していく事への誓いである。数百名が参列した特別式典で記念植樹式が実施され、雷雨の嵐から一瞬にして太陽光線が導かれたのは巨石がもたらした奇跡であったのであろうか。式典が終わった後に嵐が再到来したのは偶然の天地の流れであつたのか知る由もない。そのモニュメントに設置されたブロンズ盾には武徳のマークが艶やかに刻み込まれ、人類愛と平和の象徴として永遠に語り継がれることになると確信する。

それに続いて二十七日からアメリカ武徳祭と合宿が同時進行で実施された。武道講習会には数百名が会場一円に広がり、情熱溢れた講習の中素晴らしい稽古を体験した。各武道の指導者はそれぞれの流派武道の基本的な技を入念に教授していた事と受講者の誠実な修得態度が

印象に残った。

その夜から始まった合宿稽古は風林火山の旗印の下、全員が一致団結して火の玉となり、凍りつく海で洗礼を受けた。竹田理事の掲げた山の軍旗に一丸となっていた参加者の氣迫が連鎖して大きな氣の流れを作動させ夜間の氷雨は汗の露と化した。

さらに二十八日、アメリカ武徳祭が厳粛に開始された。顕彰会として他界したキム剣道教士の国旗献上式が無言の静寂と尊嚴の気持ちで張り詰める中で実施された。聞こえていたのは夫人のせせりなく涙と惜しまれる武人への旅立ちに対する祈りの声であった。祓いの形から始まり厳肅な形で次々と繰り出された演武は実に見事で簡潔であった。参加者の氣迫と意気込みが感じられたのは大自然で受けた偉大な力であったかも知れない。

その後休みなく合宿稽古が連続して実施され、烈火の氣合の音が枯れることなく大西洋の海原と共にその力を増していった。夕刻には記念晩さん会が実施され全員が五十周年記念の祝宴を楽しんだ。五十年前の友の中には既に多く散って行った者もいたが、再会を果たした者達は武道の世界がもたらしたゆるぎない契りと友愛を感謝していた。

翌朝、体感温度零下六度の激寒の中、凍りつく砂と白波を立てる波、皮膚を突き抜ける寒風にもかかわらず誰もひるむものはいなかった。大西洋の遙か彼方、水平線に張り詰めた雲の間からゆっくりと昇り始める壮大な太陽を見た瞬間の気合いは生命の歡喜の瞬間であった。そこそが全員で体験する事が出来た武徳の魂と美と真実であったと確信する。

かくしてアメリカ支部五十周年記念武徳祭と記念合宿は忘れる事がない無限の感動と同胞愛を感じとった不滅の武徳精神としてその歴史の一ページとなった。次の五十年間はどのような世界となり、大日本武徳会がどのように発展しているかはあの偉大な巨石が静かに淡々と見守ってくれると信じた。

最後にこの半世紀に及びご協力ご賛同、ご尽力いただきました本会の先生方、国際部の会員各位、アメリカ支部会員各位、全ての関係者各位に対して深く感謝致します。今回の本事業に対して多大なご尽力、貢献とご努力をしていただき、本会からの軍旗指導者として大きな活躍をされた竹田豊先生に深く感謝致します。さらにあまりにも多大なご支援とご協力をいただきました桑原兵充副総裁には感謝の言葉が見つかりません。また本事業にご支援いただきました高田寛次先生、川村八朗先生、石本一平先生、又御協力していただきました理事各位にこの紙面をお借りしまして厚くお礼申し上げます。



異空間・巨石ピースモニュメント

竹田 豊

アメリカ合衆国武徳会五十周年記念第五回アメリカ武徳祭及び武道合宿開催中の、平成二十七年三月二十六日は早朝から風雨が強く雨が止む気配は全くない天候であった。

午後三時よりピースモニュメント石碑庭園開園式典の開始である。式典に間に合うように雨の中ホテルを出発した。天候が心配されたが現地に到着すると雨は止んだ。

巨石ピースモニュメントの写真は何度か見ていたが、現地で見る巨石は圧倒的な迫力で、近寄りたいたい威厳にみちた存在である。

巨石の周りには目に見えないバリアを巡らせている感があり、一種独特の神域、いや宇宙域という言葉があれば、宇宙域と化している。宇宙からのこの恵とは言葉が発せられないほどの威圧感がある。

式典が始まるころは、太陽光が射し今までの風雨はどこへやら晴天になった。濱田代表理事のオープニング挨拶に続き、両国の国歌演奏が行われ、招待された各来賓の謝辞が続いた。

植樹、高校生の合唱が続き式典は肅々と進み、いよいよ閉会の挨拶が濱田代表理事より述べられた。

お話の中でご家族の事を話された時、突然代表理事の周りだけが突風となり、テントを吹き飛ばさんばかりの勢いで吹き荒れた。五百人

の参加者は息を呑み見守る。

濱田代表理事は機転を利かされ、亡き父上の事をお話された。すると不思議にも突風は瞬時に止まり、先ほどのような天候に戻った。プロムナード参加者が、恐らく体験した事のない劇的な現象であったことは確かだ。

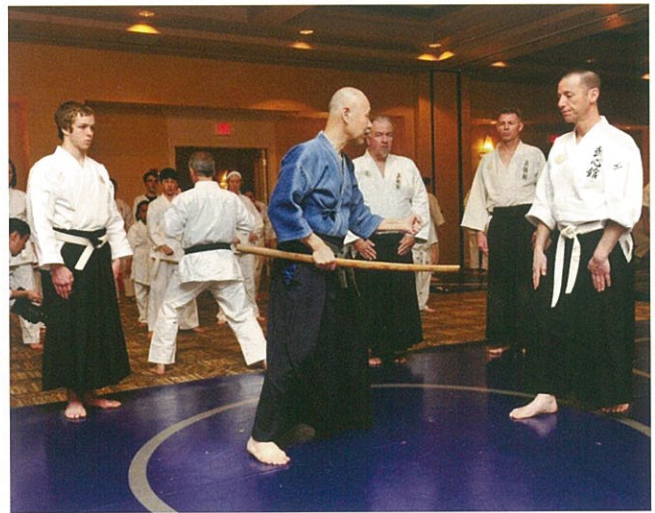
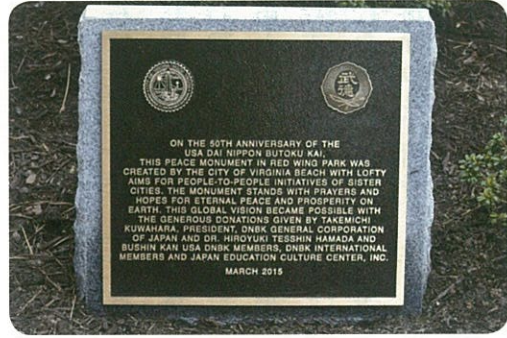
偶然だと一言で断を下せばそれ以上の発想は広がらない。

宇宙の「摂理」か「理」なのか、凡人の私には想像出来ない。宇宙は波動で出来ていると以前テレビで誰かが言っていた事を思い出した。魂の波動か、宇宙と一体化した巨石と前生ぜんじょうの人間との合作の世界だったのかは解からない。理解しようと考える事が、宇宙から見れば、おこがましく余計な事なのかも知れない。

式典終了と同時に午前と同じく雨風が強くなった。

地球規模でなく、宇宙規模が巨石エネルギーの不思議を私に体感させた。







(写真提供：国際部)